

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
高田昇			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
森 隆知		立命館大学 政策科学部 政策科学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
地域デザイン調査	RMKd-110701-2	45人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

報告書の作成にあたっては、A3サイズ裏表2枚、計4枚のプレゼンテーションボード形式に集約させた。4.にあるような多様な調査項目から、学生が複数を選択して調査し、それらを集中的に行う結果となった。したがって、網羅的かつ総合的に地域を把握する調査というよりは、対象地区の問題性を象徴するような特徴的な項目に限定した調査となった。この作業過程においては、一定の地域問題に関する仮説が必要であり、学生はこの仮説設定に十分な時間をかけつつ、プレゼンを行うまでの調査計画・実施の全過程をひと通り行うことができた。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：

立命館大学衣笠キャンパス、及び立命館大学衣笠キャンパス周辺地域(等持院、竜安寺、金閣寺などの観光資源の分布、等持院の門前町、一般住宅地等で構成される)の現状把握と改善すべき課題の調査。

2. 調査の内容／概要：

大学キャンパス、及び立命館大学衣笠キャンパス周辺地域の実態調査。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

立命館大学衣笠キャンパス、及び立命館大学衣笠キャンパス周辺地域（衣笠キャンパスから概ね1000m～2000mの範囲）。当調査はフィールドワークによる事例研究としての調査であるため、実習時間上の制約の観点から、大学の近隣を選定することとした。また、金閣寺や竜安寺等の観光地が近傍にあるため、観光地の実態調査の意味をもたせることができた。

4. 主な調査項目：

キャンパスのバリアフリー実態、キャンパスに必要な機能の充足度、キャンパスのアメニティ実態、キャンパス周辺の住環境調査(密集度、オープンスペース配置等)、キャンパス周辺の地域資源調査、キャンパス周辺の景観調査等。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

実測および写真撮影、地形図への記入によるデータ収集。身の回りの環境を定性的に調査するという方法を採択した学生が多くなった。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

調査実施時期は講義開講時である10月第3週～12月第1週にかけての計5日間。調査地は立命館大学衣笠キャンパス、及び立命館大学衣笠キャンパス周辺地域である。調査員数は45人となった。

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：

質的調査が中心となっており、写真撮影、及び地形図の加工が中心となった。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

課題に対する自由な提案をも行う実習であったため、分析対象となるデータは多様であった。顕著な成果を上げた学生の場合、周辺住民、及び住民組織、観光客へのヒアリングを基にキャンパス周辺の観光実態を的確に分析し、新たな観光地域としてのプランニング等を行うことができた。

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

当科目は問題の発見から事実の分析、提案の提示にまで至る地域デザインに関する一通りの調査過程を経験させる科目であった。調査の正確性と解決案の新規性を両立することができる学生は少なかったが、概して、前者の正確な調査活動の習得は十分であったため、この点を今後も強化していく。

10. 報告書刊行の予定と概要：

報告書の刊行予定は特になし。